第86回 憲法を考える映画の会 試写会

日本人はなぜ戦争へ向かったのか
“熱狂”はこうして作られた

日本人はなぜ戦争へ向かったのか
“熱狂”はこうして作られた

2026年 2月8日（日）
13時30分～16時30分
文京区民センター ３A会議室
（地下鉄 春日駅 2分・後楽園駅 5分）

■プログラム
13：30～13：40　今回の作品について
13：40～14：30　参考上映
『日本人はなぜ戦争へ向かったのか
“熱狂”はこうして作られた』（49分）
14：30～15：00　トークシェア
15：10～16：30　参考上映
『映像の世紀 第4集 ヒトラーの野望
人々は民族の復興を掲げたナチス
・ドイツに未来を託した』（74分）

■入場無料（資料代、会場費の協力をお願いします）

映像を見て考えたいこと

あなたは、日本が再び戦争をする日が来ると思いますか?
日本が戦争へと突き進む中で、新聞やラジオはどのような役割を果たしたのか。戦争という時流に乗ったメディア、メディアの影響でナショナリズムに熱狂していく民衆、そして庶民の支持を得ようと自らの言動にしばられていく政府・軍の幹部たち。その三者によって作られた世論の熱狂とは何だったのか。
■NHKスペシャル「日本人はなぜ戦争へ向かったのか
第３回“熱狂”はこうして作られた」2011年2月27日放送

映像の世紀 第4集 ヒトラーの野望　人々は民族の復興を掲げたナチス・ドイツに未来を託した

20世紀、最もたくみに映像を利用して大衆の心をとらえた権力者ヒトラー。国家がプロパガンダ映画を使い世論をリードした1930年代。ナチスが自ら制作した映像を通して、ヒトラーが熱狂的支持を得た背景や戦術を探る。大恐慌の再建に苦しむアメリカ、資本主義社会への優越性を宣言するソ連、満州国の建設に踏み出した日本の姿を織り込みながら世界を戦争に巻き込むナチスドイツの狂気への道を映し出す。
■NHKスペシャル「映像の世紀 第4集 ヒトラーの野望
人々は民族の復興を掲げたナチス・ドイツに未来を託した」1995年６月17日放送
（作品の解説はDVDジャケットから引用）

「日本人はなぜ戦争に向かったのか」という番組のシリーズ名にひかれました。主語が「日本（という国）」ではなく、「日本人」であるところにです。
つまり、作品の基本に、戦争で自分たちが悲惨な目に遭ったばかりでなく、近隣の国々の人々を戦争に落とし込んだのは、そのような戦争をする政治を選んだ「日本人」だ、という視点があると思えたからです。
その日本人が、自分たちが犯した過去の過ちをしっかり反省して来なかったことが戦後80年であり、その結果、今、再び戦争に向かおうとしているような政治、社会を作っているのではないでしょうか。
この『“熱狂”はこうして作られた』は、“熱狂”を仕掛けて煽ったマスメディアの側の責任に焦点が当たっています。
そうした原因や責任を問うことも大切ですが、「どうして日本人はそのような誘いに乗って、戦争への道へと“熱狂”して向かって行ってしまったのか？、それを知ることから、同じような誘いに乗って、戦争に向かって行くのを止めることができないか、と考えました。
さらに、分断と排除を進め、力にまかせた争いや戦いに誘い込む政治が世界の各地で繰り広げられています。人類が今まで築いてきた民主主義と平和への指向、そして人権が次々と壊されています。そうした動きを熱烈に支持し賞賛する人々がたくさんいるのも事実です。それらを動かしているのは何なのか、第二次世界大戦に至る世界の歴史を描いた二つのドキュメンタリー番組を見て、考えていきたいと思います。

憲法を考える映画の会 （関連上映会）これまでの上映作品 （2013年4月～2025年12月）

第1回 2013年4月06日
戦争をしない国 日本

第2回 2013年5月19日
八十七歳の青春 市川房枝生涯を語る

第3回 2013年6月15日
映画 日本国憲法

第4回 2013年7月06日
日本国憲法誕生

第5回 2013年8月10日
日本の青空

第6回 2013年9月14日
ベアテの贈りもの

第7回 2013年11月02日
ショック・ドクトリン

第8回 2013年11月30日
レーン・宮沢事件

第9回 2014年1月18日
ニッポンの嘘
報道写真家 福島菊次郎90歳

第10回 2014年2月08日・3月01日
“私”を生きる

第11回 2014年4月12日
9条を抱きしめて

第12回 2014年5月24日
死んどるヒマはない
益永スミコ86歳

第1回ちいさな映画会 2014年6月21日
ラブ沖縄

第13回 2014年7月19日
ファルージャ
イラク戦争 日本人人質事件…そして

第2回ちいさな映画会 2014年8月17日
僕たちは見た
沈黙を破る

第14回 2014年9月21日
ありふれたファシズム
野獣たちのバラード

第3回ちいさな映画会 2014年10月4日
速報 辺野古の闘い 2014年8月
アルマジロ

第15回 2014年11月22日
ANPO
あの熱かった時代の『抵抗』のアート

第4回ちいさな映画会 2015年2月1日
スペシャリスト
わが青春に悔なし

第16回 2015年3月14日
証言 侵略戦争
証言 中国人強制連行

第17回 2015年4月25日
イラク 戦場からの告発
ジャーハダ イラク民衆の闘い
シリア内戦 イスラム国の正体を暴く

第18回 2015年6月13日
井上ひさし 九条を語る
加藤周一 九条を語る
女性達にとっての日本国憲法

第19回 2015年7月18日
東京裁判

第5回ちいさな映画会 2015年8月23日
弁護士 布施辰治
天皇の名のもとに

第20回 2015年9月13日
誰も知らない基地のこと

第21回 2015年10月25日
首相官邸の前で

第22回 2015年11月28日
ハーツ・アンド・マインズ
ベトナム戦争の真実

第23回 2016年1月31日
白バラの祈り
ゾフィー・ショル、最後の日々

第24回 2016年3月26日
グラニート
独裁者を追い詰めろ

第25回 憲法映画祭2016 5月01日
映画 日本国憲法／ありふれたファシズム／
ショック・ドクトリン

第26回 2016年6月26日
ザ・思いやり

第27回 2016年7月24日
ハトは泣いている
時代（とき）の肖像

第28回 2016年9月17日
焼け跡から生まれた憲法草案

第29回 2016年10月15日
NO（ノー）

第30回 2016年11月03日
わたしの自由について
SEALDs 2015

第6回 ちいさな映画会
2016年12月10日
抗い ARAGAI
横浜事件を生きて

第31回 2017年1月29日
横浜事件を生きて
横浜事件 半世紀の問い

第32回 2017年2月25日
小林多喜二

第33回 2017年3月26日
武器なき斗い

第34回 憲法映画祭2017 4月29・30日
意志の勝利／白バラの祈り／夜と霧／
顔のないヒトラーたち／戦争をしない国 日本
大東亜戦争／天皇と軍隊

第35回 2017年5月27日
知事抹殺の真実

第36回 2017年7月01日
テロリストは誰？

第37回 2017年8月27日
戦ふ兵隊
日本の悲劇

第38回 2017年10月14日
隠された爪跡
払い下げられた朝鮮人

第39回 2017年12月10日
ジョン・ラーベ 南京のシンドラー

第40回 2018年1月27日
憲法を武器として
恵庭事件 50年目の真実

第41回 2018年2月25日
ザ・思いやりパート2
希望と行動 編

第42回 憲法映画祭2018 4月29・30日
すべての政府はウソをつく/ニッポンの嘘
東京裁判/NO/ハトは泣いている
トランプのアメリカ

第43回 2018年6月3日・30日
500年 権力者を裁くのは誰か
グラニート 独裁者を追い詰めろ

第44回 2018年8月25日
『在日』

第45回 2018年9月23日
スペシャリスト 自覚なき戦犯者

第46回 2018年11月03日
OKINAWA1965

第47回 2018年12月08日
南京！南京！

第48回 2019年1月27日
わたしの描きたいこと

第49回 2019年3月02日
天から落ちてきた男

第50回 憲法映画祭2019 4月26日～28日
あの日の声を探して／天皇の名のもとに／
証言侵略戦争/陸軍前橋飛行場／
沖縄スパイ戦史/ありふれたファシズム／
ショックドクトリン／ベトナムから遠く離れて／
共犯者たち

自主制作映画見本市＃1 2019年4月30日
死んどるヒマはない／私の描きたいこと
ハトは泣いている／隠された爪跡／
OKINAWA1975／
知事抹殺の真実／フクシマ2011

第51回 2019年6月30日
沖縄から叫ぶ 戦争の時代
宮古島からのSOS

第7回 ちいさな映画会
2019年7月14日
言わねばならないこと／遅すぎた聖断

第52回 2019年8月10日
ピカドン
ひろしま

自主制作映画見本市＃2 2019年9月23日
『在日』／証言 中国人強制連行／
レーン・宮沢事件／ファルージャ／
シロウオ／生きるのに理由はいるの

特別講演会 2019年10月22日
『現代天皇制の心の支配』 山田朗 先生
遅すぎた聖断

第53回 2019年10月26日
ニジノキセキ

特別上映会 2019年11月03日
靖国・地霊・天皇
遠近を抱えて PART2

第54回 2019年12月08日
主戦場

自主制作映画見本市＃3 2020年1月13日
陸軍前橋飛行場／靖国・地霊・天皇
憲法を武器として／9条を抱きしめて
裁判所前の男／選挙が生まれる

第55回 2020年2月11日
アフガニスタン
用水路が運ぶ恵みと平和

第56回 2020年9月21日
沖縄と本土 一緒に闘う
ヤジと民主主義

自主制作映画見本市＃4 2020年9月26日
ヒロシマナガサキ 最後の二重被爆者
私たちは忘れない／二つの故郷を生きる
棘／人らしく生きよう／生きるのに理由はいるの

第57回 2020年11月03日
地の塩

特別上映会 2020年11月23日
人らしく生きよう 国鉄冬物語

自主制作映画見本市＃5 2021年2月23日
天皇の名のもとに／グラニート
ザ・思いやり／チェルノブイリハート

第58回 2021年3月27日
言わねばならないこと
ショック・ドクトリン

第59回 憲法映画祭2021 4月17日
戦争のつくりかた／戦争をしない国日本
シャドー・ディール／1987、ある闘いの真実

第60回 2021年6月06日
ハワイマレー沖海戦
ドキュメント真珠湾攻撃／ミッドウエイ海戦

第61回 2021年8月08日
荒野に希望の灯をともす

自主制作映画見本市＃6 2021年9月26日
外国人収容所の闇／君が代不起立／
終わりの見えない闘い／闇に消されてなるものか

第62回 2021年11月21日
子どもたちの昭和史

自主制作映画見本市＃7 2021年12月26日
原発の町を追われて／バークレー市民がつくる町
日高線と生きる／作兵衛さんと日本を掘る／
いのちの海

第63回 2022年2月06日
標的

自主制作映画見本市＃8 2022年3月13日
傍観者あるいは偶然のテロリスト／
海辺の彼女たち／ウィシュマ・サンダマリ／
オキュパイシャンティ／
メトロレティーブルース

第64回 憲法映画祭2022 4月23日・24日
グレタひとりぼっちの挑戦／ちむぐりさ／
私たちの生まれた島／若きハルサーたちの唄／
バークレー市民がつくる町／日本鬼子／
映画日本国憲法／コスタリカの奇跡

第8回 ちいさな映画会
2022年6月25日
ヒトラー VS チャップリン 終わりなき闘い
チャップリンの独裁者

第65回 2022年8月13日
TOMORROW 明日

自主制作映画見本市＃9 2022年9月18日
２８８７／ワタシタチハニンゲンダ!／
葫蘆島遣送／岸辺の杙

第66回 2022年10月23日
教育と愛国

第67回 2022年12月25日
日本原 牛と人の大地

第68回 2023年2月12日
テロリストは誰？

第69回 憲法映画祭2023 4月29日30日
はだしのゲン／対馬丸／うしろの正面だあれ／
少女ファニーと運命の旅／ジョニーは戦場へ行った／
沖縄うりずんの雨／教育と愛国／ある戦争

第70回 2023年7月16日
ドキュメント石垣島／
沖縄、再び戦場へ（仮）スピンオフ作品

第71回 2023年8月6日
広島・長崎における原子爆弾の影響

第72回 2023年10月21日
鶴彬 こころの軌跡

第73回 2023年12月23日
流血の記録 砂川

第74回 2024年2月3日
サイレント・フォールアウト

第75回 憲法映画祭2024 4月29日
ヤジと民主主義／しではら／
荒野に希望の灯をともす／戦争のつくりかた／
ミサイル基地がやってきた 島で生きる／
サイレント・フォールアウト

第76回 2024年6月29日
アトミック・カフェ

第77回 2024年8月11日
生きていてよかった／千羽鶴

第78回 2024年10月14日
琉球弧を戦場にするな

第79回 2025年1月12日
映画 〇月〇日、区長になる女。

第80回 2025年3月20日
ガザからの報告

第81回 憲法映画祭2025 4月29日
禁じられた遊び／ベアテの贈りもの
オン・ザ・ロード／夢みる校長先生

第82回 2025年6月28日
琉球弧を戦場にするな 2025
拝啓 住民投票さま
石垣島のまんなかで起きたこと

第83回 2025年8月11日
陸軍

第84回 2025年10月5日
あの日、群馬の森で

第85回 2025年12月7日（予定）
レーン・宮沢事件

憲法を考える映画の会

〒185-0024
東京都国分寺市泉町3-5-6-303
mail：hanasaki33@me.com
ホームページ
http://kenpou-eiga.com/

●毎回の「映画の会の案内」をご希望の方は、上記のMailアドレスまで、その旨、お知らせください。